

## 「熱い心」 ～日本一熱く、絆強き学校への道～



## 一人一人が「自分色」を輝かせる！ ～Harmony～

【「しょうぼうじどうしゃ じぶた」 あらすじ】

ここは街の真ん中にある消防署。高いビルにはしごをのぼして火を消すことのできる、はしご車の「のっぽくん」。たくさんの水で激しい炎も消すことのできる高圧車の「ばんぷくん」。けが人を運んで助ける救急車の「いちもくさん」。大きな火事があれば、彼ら三台がそろって飛び出して大活躍をするのです。大きくて立派な働きをするみんなは、子どもたちにも大人気です。

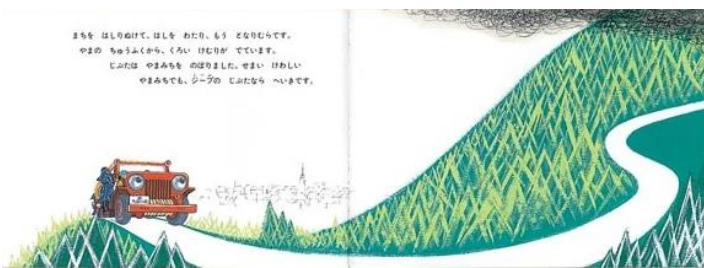


…あれれ、消防署のすみっこには

もう一台いますよ。ジープを改良したその小さな車体にはポンプがついています。ぷーぷーとなるサイレンだってついています。彼の名前は「じぶた」。ところが、だあれも「じぶた」の事を気にかけてません。古いジープを改良した「じぶた」は働き者だが小さいので、出動するのはボヤのときだけ。街の子どもたちも、火事

のたびに大活躍するはしご車の「のっぽくん」や高圧車の「ばんぷくん」、救急車の「いちもくさん」たちばかり注目して、小さい「じぶた」には見向きもしなかったのです。とっても働き者なのに、いつも「ちびっこ」扱いされて、「じぶた」は自信を失いかけていました。…ところが、そんな矢先道の狭い山の中で火事が起こります。放っておけば山火事になってしまいます。そこで出動を命じられたのは、なんと「じぶた」でした。

そう、大きくて立派な友達たちは細い山道には行くことができなかったのです。一目散に現場に向かった「じぶ



まちを はしごのぼして、はしごを わたり、もう 大きなビルです。  
やまの ちびっこから、くわい けいびつが できます。  
じぶたは やまあちを のぼりました。せまい けわしい  
やまあちでも、ジープの じぶたなら へいします。



た」は火事が山全体に燃え広がるのを食い止めました。

・・・この絵本はもう何十年も前から読まれている作品です。小さい体でも険しい道をぐんぐん上っていく「じぶた」は勇敢で頼もしく見えます。読んでいる子どもも「がんばれ！」と「じぶた」を応援。火事を消すと「じぶた、すごい！」と絶賛。あっという間に「じぶた」のとりこになっていくのです。そう、**自分のすべきことを一生懸命にやる「じぶた」の姿を、**たくさんの人たちが応援するのです。みんなと違って小さくても、立派なものを何も持っていないなくても、**自分の役割を一生懸命果たすことで誰かの役に立つ。**そして、**いつか認められる時がくる。**そんな姿に心がワクワクしてあこがれるのです。…もっと想像力を広げると、「じぶた」とその仲間、それぞれが互いに自分のよさを、「自分色」を發揮し合い、力を合わせることで、街全体もどんなに素晴らしい街になることか…。**「Harmony！一人一人が輝き、重なり合い、一人も欠かさず、協力し合える学校にしたい**」という思いをこめた前期生徒会も残り3週。一人一人が「自分色」を發揮し合い、認め合い、応援し合って、輝かせていこう。



渡辺茂勇 さく 山本忠敬 え

